

MRI 造影検査時の注意事項

1. 造影 MRI 検査とは

ガドリニウムを含む薬（造影剤）を血管内に注射して行う検査で、造影剤を使用することにより、病変の存在や性状などがより詳しく描出され、その診断や進行の程度、治療方針の決定に造影剤を使用した検査が必要になります。

2. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前に罹った病気、家族の方が罹った病気などに注意しながら、安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記のような副作用症状が起きることがあります。

軽い副作用（頻度は約 1～2%以下）

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、発疹、かゆみ、発熱、せき、等。

重い副作用（極めてまれで 1 万人に 1 人以下）

ショックやアナフィラキシー様反応（例えば、呼吸困難や血圧低下）が生じることがあります。

以下の既往がある方は、造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強く出る場合があります、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診票に記入をお願いします。

- 今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことのある方
- 気管支喘息などのアレルギー性疾患のある方
- 他の薬剤過敏症やじん麻疹などアレルギー歴のある方
- 気管支喘息による発作のある方

検査中に合併症が生じた場合には、適切な処置を行ないます。